

オフィスK
AFP ファイナンシャルプランナー

伊 藤 の つ ぶ や き コ ラ ム

iDeCo、NISA、変額保険、
どれを選べばいい？

こんにちは、ファイナンシャルプランナーの伊藤です。

iDeCoとNISA、どちらかを選べばいいですか？非常によく受ける質問です。僕の考えは、そこに変換保険を加えた3つをそれぞれの特性を知った上で、自分の目的に合わせて選定し組み合わせるべきです。本日はこの3つを『流動性』という最も重要な観点で比較しようと思います。

まず大前提として、実際に資産形成しているのは「投資信託」だということです。

投資信託を使って資産形成する時、どうせならよりお得な特典を得られたほうが良いですよね？このよりお得な特典が、購入した投資信託をどの制度を使って管理するかによって変わります。その管理する場所がiDeCoだったりNISAだったり変額保険です。

大きくいうと、出口で非課税のNISA、入り口で所得控除のiDeCo、様々な保障が貰える変額保険といった感じです。

メリットだけではなく、保障をもらえる代わりに手数料がかかるデメリットがある変額保険だったり、担当者が基本的にはいないのに最も出口の受け取り方が難しいというデメリットがあるiDeCoだったり、この10年で4回も制度が変わっていることから今後も制度改革が考えられたり、相続時のトラブルも指摘されているのに多くの方が担当者のいないネット通販でとりあえず始めていることが問題視されているNISAだったり・・・。

それぞれに良さ悪さがあります。

iDeCo、NISA、変換保険を比べる動画や本は沢山ありますが、私的には最も考えなければいけない要素が『流動性』です。というもどれだけ良い商品が良い制度を使って資産形成したとしても、

最後まで続けなければ絵に描いた餅です。ただ、この『流動性』という視点は、残念ながら抜け落ちる場合がほとんどです。という事で、本日はこの流動性を軸に、iDeCo、NISA、変換保険を比べてみたいと思います。

01 流動性

そもそも『流動性』とは、直ぐに出し入れできるかどうかという要素です。預貯金は流動性が最もある資産です。資産形成を行う上で、どのくらいのタイミングまでその資産を使えないのか、逆に言えばどのくらいぐらまでは使えなくてもいいのかは、人それぞれです。自身のライフプランと照らし合わせて必ず考えなければいけない要素です。

02 NISA 流動性

まず、NISAの支払期間ですが、1回だけでも1年でも10年でも自由です。いつ引き出せるかを見ても、NISAはいつでも自由に引き出せます。つまり、iDeCo変額保険と比べて最も流動性が高く、短期の資産形成が許されているのがNISAだと言えます。また新NISAになって非課税期間が無制限になったことで、短期が許されているだけでなく、長期の資産形成にも対応しているので、短期～長期まで最も流動性のある商品と言えます。

そしてNISAの一番の価値はこの流動性だと言えます。

03 iDeCo 流動性

iDeCoは、出口の税制優遇効果（退職所得控除）を考えたら長期間支払った方が有利な制度です。

さらにNISA、変額保険と比べてゆいゆい口座を維持するのに手数料がかなり月々で支払える上限がかなり少ないことから長期間しっかりと時間をかけて資産形成をすることから価値あると言えます。そもそも国も、iDeCoを『私的年金』という

位置づけにしているのだから老後まで一切引き出せません。最も流動性がなく長期的な制度と言えます。

04 変額保険流動性

変額保険は商品にもよりますが、働けなくなっても資産形成を続けてくれるとか、認知症対策とか死亡や3大疾病対策など、様々な保障という特典と引き換えに、通常は5～10年以内に解約控除という手数料がかかるので、支払が短期間だと全く解約払戻金が立ち上がっていません。つまり、ある程度の期間は支払わなければいけません。受取時も解約控除が終わってからのいよいよ資産が増えていくので、ある程度の期間は引き出さない方が良いでしょう。逆に面白いのが、支払いすぎたら保障が長く続く代わりに運用効率は悪くなるという特性があります。例えば、2万円を20年ぐらいいなら4万円を10年しはらった方が老後の受取額は大きくなる可能性があります。

変額保険の一番の価値は、万が一の時にも資産形成を成立させる保障です。そもそもiDeCoやNISAがいくら良い制度だったとしても、続けなければリスクの方が高くなりますし、健康でなければ続けることができない

可能性があります。

そう考えたら変額保険自体は中期～長期の資産形成に向けた制度で、流動性はNISAよりはないがiDeCoよりはあります。一方で、NISAやiDeCoの流動性を保障という特典で保管している商品だと言えます。

05 まとめ

もちろんこの他にも、手数料や、商品数、商品手数料の優遇、年払い割引などの特性を考慮する必要もありますし、税制優遇をどれだけ受けるなど、その人それぞれのメリットデメリットも違ってきますので、一概にどの制度が優れているのかではなく、その人それぞれに合ったものを、ライフプランや目的、人生設計に合わせて選定し組み合わせる必要があります。

ただ、その検討材料を軸に、その制度をちゃんと続けていくためにはどのようにすればいいのかを考えなければいけませんし、その重要な要素が『流動性』です。



保険代理店 オフィスK・M

〒505-0125 岐阜県可児郡御嵩町伏見 962-2

TEL・Fax 0574-42-6668

E-mail: i10chan@khaki.plala.or.jp

伊藤浩一の Line



ホームページ <https://www.officekm.net/>